

ごあいさつ

新型コロナウイルスの感染が確認され、3年目に入りました。感染拡大の都度、少しずつ様相が違い、第6波は子どもの感染が多く、医療従事者が濃厚接触者になる、また、保育園や学校がクラスターになり休園・休校になる等で、医療従事者が出勤できない状況になり医療が逼迫しました。その時々状況変化に、その都度施設全体で知恵を出し合い工夫しながら、兵庫県民の命と暮らしを守ってくださっていることに、心から感謝と敬意を表します。しかし、新型コロナウイルスの感染の波がいつまで続くのか、先の見えない状況に対する不安と疲弊、3密回避のための黙食の徹底による職場のコミュニケーションの減少、常時マスクを着用し表情や感情を察しにくい等、先輩・後輩、同僚との人間関係が構築しにくく、コロナ対応に伴う弊害も相まって、昨年度の離職者数は増加となりました。

現在（4月）、第6波が収束することなく、オミクロン株がBA-2におき変わり、第7波に突入しているのではないとも言われています。このような医療現場の状況を踏まえ、「With コロナ」の中で働く看護職の支援につながるよう本会活動を推進してまいりたいと思います。

令和4年度の定時総会も、参加者の皆さまの安全に配慮し、書面による議決権行使を実施できるようにいたしました。第7波に突入していなければ感染状況によっては、代議員は本会に参集する対面の形式で開催する予定にしています。会員の皆さまは、オンライン参加していただき、多くの会員の皆さまに協会活動に対するご意見・ご要望をお寄せいただき、ご支援をお願いいたします。

さて、令和3年度の兵庫県看護協会は、5つの重点方策 ①時代のニーズに対応できる看護職の人材育成、②地域包括ケアにおける看護提供体制の構築・推進、③看護職が健康で安全に働き続けられる環境づくりの推進、④災害等健康危機管理体制の整備、⑤組織力の強化を掲げ取り組んできました。新型コロナウイルスの感染状況に合わせて、その都度、オンラインや対面、ハイブリッドと、研修だけでなく会議や合同就職説明会等も工夫しながら事業を展開してきました。これも、会員の皆さまのご理解とご協力があったことだと思います。感謝申し上げます。

令和3年度の取り組みのトピックスは、①研修システム manaable（マナブル）を導入し、皆さまのご協力のおかげで運用が浸透してきたこと、②特定行為研修を含んだ認知症看護認定看護師教育課程（B課程）の1期生を無事に送り出したこと、③訪問看護総合支援センターを立ち上げ、活動が浸透してきたことがあげられます。課題はありますが、令和4年度も引き続きこれらの活動を推進していきます。

また、令和4年度は、令和2年度にまとめた、「兵庫県看護協会活動のあり方-2040年を展望して-」の中で、当面5か年の取り組み事項として定めた6点、1.看護職の人材確保と定着促進、2.看護職の能力拡大、3.県民の健康づくり・地域づくりの支援、4.多職種・異分野との連携の推進、5.災害・健康危機支援体制の強化、6.組織力の強化 と、令和3年度取り組みの評価等も踏まえて、本会が目指す看護「時空を超えて創造する、つなぐ・つながる看護」「県民の誰もが自らの生き方を選択でき、どのような状況であっても心から幸せを実感できる生き方を支える看護」を実現すべく、令和4年度は以下の6つの重点方策を掲げて取り組みます。

1.看護職の人材確保と定着促進、2.キャリア開発支援、3.全世代型地域包括ケアシステムを支える看護機能の強化、4.勤務環境改善の推進、5.災害、健康危機支援体制の強化、6.職能団体としての組織力強化 会員の皆さまと共に、2040年に向かって1歩ずつ歩みを進めてまいります。

さらに、重点方策に取り組むために委員会活動を見直し、新たに「看護管理者活動推進委員会」を立ち上げ、「ナースセンター運営委員会」は、「看護職確保定着・離職防止推進委員会」と改名して、取り組みを推進し

ていきます。特に、2年後の「診療報酬・介護報酬の同時改訂」「医師の働き方改革の実施」「第8次医療計画の策定」等、2040年に向けて、保健・医療・福祉の施策は大きく変わっていきます。そんな中、看護管理者が地域における自施設の役割を認識し、地域全体の医療・看護の質を向上させる仕組みづくりに向けて、取り組んでいきます。

新型コロナウイルスに関する取り組みとしては、クラスター発生時の看護職の県内・県外派遣の仕組みづくりも、県と共同で進めていきます。また、昨年度、皆さまにご協力いただきました「コロナ記録（仮）」を現在、発行に向けて整理中です。完成次第、兵庫県の新型コロナウイルスへの看護職の取り組みとして、会員施設の皆さまと共有させていただけるように送付させていただきます。次の波に向けて参考にさせていただけたら幸いです。

他に、本会館は築17年になります。時代にニーズに合わせ将来を見据え、未来への投資として、今年度は、ハーモニーホールの映像設備の整備等により、オンラインにも対応できるように取り組んでまいります。

最後に、2040年に向け、兵庫県看護協会が目指す看護について、皆さまの思いを共有したいと思います。

「時空を超えて創造する、つなぐ・つながる看護」

地域包括ケアを推進していくためには、目の前の利用者を見て、どのような生き方・人生を歩んできたのかを知り、その人の過去と現在の状況から、その人が持っている力を最大限引き出し、病気と共生しながら、地域に戻ってからの生活を利用者と共に創造し、未来を見据えて現在のケアを実践していく。まさに過去・現在・未来という時間と、看護ケアを提供する場の広がり空間を越えて、看護を創造的につなぎ、つなげていくことが必要です。

そして、

「県民の誰もが自らの生き方を選択でき、どのような状態であっても
心から幸せを実感できる生き方を支える看護」

利用者を目指す姿を共有し、利用者と共に実現することが、利用者の立場に立った看護職の願いです。

今年度もよろしくお願いします。

令和4年6月

公益社団法人兵庫県看護協会
会 長 成田 康子